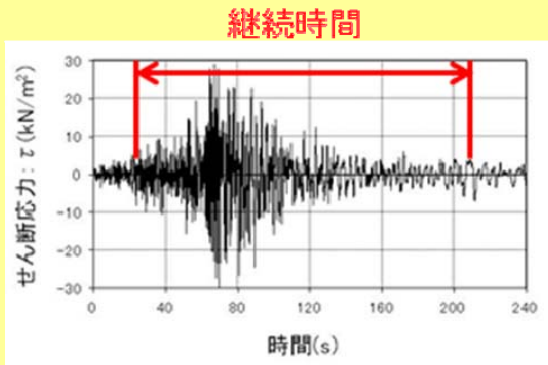
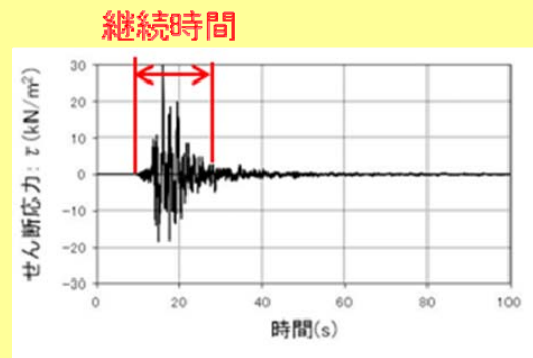


港湾における新たな液状化の予測・判定法について

- 東日本大震災では、地震動の継続時間が長かったため、震源から遠く離れた臨海部においても液状化が発生



地震動の継続時間が長い波形
(東日本大震災)



地震動の継続時間が短い波形
(阪神大震災)

これまでの予測・判定法では、地盤に加わる最大せん断応力が同値の場合、地震動の継続時間に差があっても、地盤の特性が同じであれば液状化の予測・判定結果は同じであった。



地震動の継続時間を考慮した新たな液状化予測・判定法を確立した。

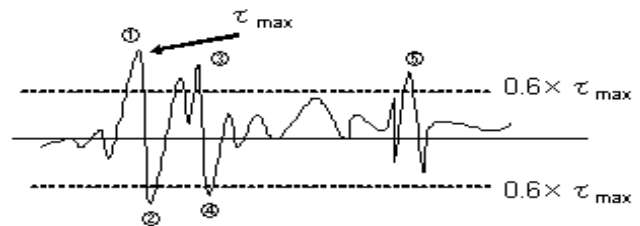
（新たな予測・判定法については、「港湾の施設の技術上の基準・同解説」を一部改訂し、8月29日（水）より、国土交通省ホームページにおいて公表している。

ホームページ http://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk5_000017.html

これにより、港湾における液状化の予測・判定精度の向上を図る。

【補足：新たな液状化の予測・判定法の概要】

これまでの液状化予測・判定法で用いられてきた地震動の大きさ（最大せん断応力）に地震動の継続時間（≡有効波数）を考慮した補正係数を乗じることにより、地震動の大きさと継続時間の長さの影響を考慮した液状化予測・判定法に改定した。



地盤に加わる最大せん断応力 (τ_{max}) の6割以上の波の数の半分を有効波数として定義し、予測・判定法に反映